



佐土原ロータリークラブ週報



会長：林 厚雄 会計：柳田 光寛
 副会長：岩切 正司 会報委員長：宮原 建樹
 幹事：藤堂 孝一

2004-2005年度R I テーマ

第880回 平成17年4月27日(水)

本日のプログラム

1. 点 鐘
2. 食事の時間
3. ロータリーソング
「奉仕の理想」
4. 四つのテストの唱和
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. フォーラム
ロータリー雑誌月間
8. 点 鐘

用して皆さんに大変好評だった、ハイビスカスゴルフクラブ当たりが適当ではないでしょうか。地域面、交通面、雰囲気、とも最高の場所だと思います。この件は早急にハイビスカスゴルフクラブさんと、交渉してみたいと思います。

今月は、ロータリー雑誌月間です。R I が発行している「ロータリアン誌」および各国で発行されている地域雑誌「ロータリーの友」などの講読と活用の促進に役立つプログラムを行うことと、それによって雑誌（機関紙）に対する会員の認識を深めると共にロータリー情報の普及を図ることが目的です。

雑誌月間が制定されたのは1943（昭和18）年で、1月25日を含む1週間を「雑誌月間」として始めたのが最初です。したがって、ロータリーの強調月間（2月の世界理解月間などの特別月間）の中でも、最も早く制定されたことになります。それだけロータリー情報の重要性を当時から強調する必要を認めていたからだと考えられます。1月にしたのは「ロータリアン誌」が1911年1月25日に創刊されたことによるものです。その後、1978～79年度から「雑誌月間」は4月に移され、1983～84年度からは特別月間として、4月が「ロータリー雑誌月間」に指定されました。

公式地域雑誌とは、R I の地域雑誌の条件を満たし、R I 理事会が指定した雑誌のことです。ロータリークラブの会員はR I の公式期間雑誌（ザ・ロータリアン）またはR I が承認した地域雑誌の有料購読者となり、会員である限り、購読を続けることを、会員身分保持の条件としなければならないと、標準ロータリークラブ定款第12条（「1998年手続要覧」P275）および国際ロータリー細則第20条（同P249）に定められています。この条件を満たしていないと指定が取り消されることになります。「ロータリーの友」はすべてクリアしていることは言うまでもありません。

第879回の記録 平成17年4月20日(水)

☆会長の時間 会長 林 厚雄君

先日、18日に岩切奉仕委員長宅で炉辺会議を開催いたしました。談話は、山脇会員を中心として岩切徳夫会員、後藤会員、藤堂幹事、と私の6名で、私の年度が9ヶ月程過ぎましたがその反省と、今後のクラブの活性化に向けて終始、活発な討論が行われました。

例会場の変更、会員増強よりも今の会員でもっとロータリーの活動の質を考えよう、友好クラブを作る、ロータリークラブよりライオンズクラブの方が町民に知名度が高いので、これから先の広報活動のありかた、など今後の問題点が主な内容でした。

広報の一環でもありますが、会員全員がロータリーの会員であることに誇りを持って、ロータリーの行事以外の時も出来るだけロータリーのバッジを付けるようにしたらどうか。職業上プラスになる事も多いと思います。例会場変更の件も重要な問題でもあります。

交通の便利性、会場の雰囲気、メーク者の訪問し易さ、などを考慮すると、先月例会場変更で1度利

例会場：石崎浜荘 0985-73-1913 事務局：〒880-0303 宮崎郡佐土原町東上那珂10255

齊藤美喜代

例会日：毎週水曜日 12:30～13:30 TEL: 0985-30-5766 FAX: 0985-30-5788

幹事報告

幹事

藤堂孝一君

1. 例会変更通知
なし
2. 宮崎南クラブの95歳の阿南さん、5月18日のゲスト卓話に決定しましたのでよろしくお願ひします。当日は多くの出席をお願いします。

出席報告

出席委員長

梶田與之助君

会員数	29名
例会出席者	22名
出席率	76%
メークアップス数	3名
修正出席率	86%
欠席者数	

情報委員長

中武幹雄君

今日は、前回お配り致しましたロータリー・クイズの回答を致します。

米山 梅吉 ⇒ (日本ロータリーの創立者)

アーサー・F・シェルドン ⇒

(He profits most who serves best)

アーチC・クランプ ⇒

(ロータリー財団の発案者 R16代目会長)

アンガスS・ミッケル ⇒

(第二次世界大戦後、日本のR・I復帰時のR・I会長)

井坂孝 ⇒

(ロータリアンは約束を守れ、賄賂に係わるな、ただちに慈善事業に走る為れ)

ガイ・ガンディカー ⇒ (ロータリー通解の著者)

チェスリーR・ペリー ⇒ (R・I初代事務総長)

ハロルドT・トマス ⇒ (ロータリー・モザイクの著者)

ニッティC・ラハリー ⇒

(Kindle the Spark Within)アジア人初のR・I会長)

ポールP・ホジソン ⇒

(奉仕こそがつとめ)出版の中心人物)

ハバードJ・ティラー ⇒ (四つのテスト)発案者)

佐藤 昌介 ⇒

(われらが、男爵・北海道発の70地区9代目ガバナー)

東ヶ崎 潔 ⇒ (日本初のR・I会長)

福島 喜三次 ⇒ (日本人初のロータリアン)

宮脇 富 ⇒ (ロータリー問答の名回答者)

田巻 明男 ⇒ (ロータリー思想のさらなる究明)

を「会員増強にさらなる協力を」「ロータリーライフ財団」

米山記念奨学金に、さらなる協力を」)

カルロ・ラビツツア ⇒

(ROTARY2000:ACT WITH CONSISTENCY CREDIBILITY CONTINUITY)

ポールP・ハリス ⇒ (ロータリーの創始者)

ポール・ハリスの言葉 山脇忍君の資料より

色々あるから面白い

一種類の花、一つ色ばかりの花壇に何の面白さがあるだろう。色々あってこそ人生に薫味が効くというものである。人間さまざま意見の違いがあってこそ人生は面白いと言える。ロータリーが一業種一人でそれぞれ違った職業から会員を集めてくることの良さもこれでわかる。ロータリーに入ることによってどれだけ我々の世界が広くなったことか。社会的な立場さえ全く違った人が友達になるのである。

そういう点から見て、日本のクラブの例会はあまりに画一的形式で面白くない。クラブというロータリー花壇に、それぞれ思い思ひの違った花が咲かせられないものだろうか。そうしたらメイクアップの為でなく、その花壇の花を見に出かけていく気になるものを……

好みに合うことをすれば良い

どんな奉仕にすることについてはさして関心を持たない。それより問題はロータリーが高唱する「超我が奉仕」を成し遂げるか否かだ。

どんなことであれ役に立つ努力をしているのに、これをやめろと言わない。それぞれ土地の事情があり、会員個人の好みもある。それに一番適合した様に選択の道を委ねるのが最良の結果を得ることになると信ずる。

次回予告

☆5月4日(水)

国民の休日

☆5月11日(水)

会員卓話

■ 四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか